

令和 4 年 2 月 24 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
521031	
選定番号	206

代表者 校園名： 大阪市立中野小学校
 校園長名： 牧野 美奈子
 電 話： 06-3258-5238
 事務職員名： 間地 豊
 申請者 校園名： 大阪市立中野小学校
 職名・名前： 校長 牧野美奈子
 電 話： 06-6352-3258

令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	今こそみんなでつながろう・伝えよう・高めよう互いの大切さ			
3	研究目的	○コロナ禍であっても特別活動特に学級活動の大切さを昨年度実感したので、続けてできる形で進められるように研究する。 ○望ましい集団活動を基盤として、なすことによって学ぶ「学級活動」を推進する。特に、新教育課程を見据えた実践研究を進める。 ○望ましい人間関係の形成、諸問題を自分達の力で解決していこうとする主体的・実践的な態度や力の育成を通して、学級経営や集団づくりに寄与する。 ○全教育活動と学級活動との関連を重視した実践等を目指すと共に、その過程で学級活動の指導方法の可視化に努める。			
		いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5ポイント)			

取り組んだ
研究内容

- | | |
|-----------|---|
| 5月 | 役員・幹事会、拡大運営委員会（中野小）
(今年度の組織づくり、研究テーマについて話し合った。) |
| 6月 | 研究全体会（研究計画立案）、低・中・高学年部会（各部の計画・役割分担等）
(各部の授業者を決め、部会の実施予定を立てた。) |
| 7月 | 役員・幹事会・低・中学年部会（指導案検討会） |
| 8月 | 第65回全国特別活動研究大会参加（8月19日20日 埼玉 オンライン開催）
低・高学年部会（指導案検討） |
| 9月 | 高学年部会（指導案検討） |
| 10月 | 全体授業研究会①
(10月18日(月)13時50分～17時 高島駿教諭 平野西小約10名・Teams5名参加)
中学年部会（指導案検討） |
| 11月
加) | 全体授業研究会② (11月12日(金)14時45分～17時 吉田慶子教諭 中野小約30名参
加) |
| 12月 | 全体授業研究会③ (11月24日(水)14時45分～17時 松本直也教諭 堀江小約30名参
加)
役員幹事会
低学年部会（紀要検討） |
| 1月 | 低学年部会（紀要検討）
拡大運営委員会（紀要原稿検討等 24日 中野小） |
| 2月 | 総合研究発表会実施（2月4日）Teamsでの発表
第37回近畿特別活動研究協議会大阪府大会オンライン参加
(2月18日9時～17時 池田市) |
| 3月 | 拡大運営委員会（来年度の研究・体制について） |

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。							
		日程	令和4年2月4日	参加者数	約77名				
		場所	大阪市立中野小学校						
		備考	Teamsでの配信のいし、1校1台端末でお願いしたので、実際には100名くらいの参加あり						
大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。									
<p>【見込まれる成果1】 低・中・高学年の段階に応じた活動（ふさわしい議題、話合いのポイント）を工夫し、児童の課題解決力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》 児童による「活動の振り返り」で集団や自己の決定に関して肯定的に捉える割合（話し合って良かった等の内容）を75%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 今年度は、学級活動（1）と（3）について研究を行い、それぞれ低・中・高学年の発達段階に合わせて題材を選定し、授業研究を行った。低学年では95%、中学年では92%、高学年では88%以上の児童がふり返りの中で肯定的に捉えていることが分かった。1年生でもしっかりと話し合ったことを実践して成就感をもたらすことができた。ICTを活用した学級会ノートは、休んでいる児童の意見も学級のみんなで共有でき話し合いに参加できることが分かった。また、学年末までも他教科に発展したり、継続したりして自分が意思決定した内容を行うことができた。</p>									
<p>【見込まれる成果2】 話合い活動の各過程における「適切な支援・援助のあり方」を工夫・改善することにより、子ども達が議題を「自分事」としてとらえることができる。</p> <p>《検証方法》 1単位時間毎の子どもの自己評価、相互評価を実施して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。（例：すすんで意見を発表できたか、友達の意見を聞いて考えることが出来たか、決まったことをすすんで実行しようと思うか、等）</p> <p>〔検証結果と考察〕 学級会ノートのふり返りでは、進んで発表できたかは、80%を下回る学年もあったが、友だちの意見を聞いて考えることができたかは、85%以上の子どもができたと答えている。小グループでの話し合いやハンドサインの活用を取り入れているため話し合いへの参加意欲は高まっている。また、ICTを活用した学級会ノートの活用で一目で全員の意見が分かるため、自分と似たような意見の子や普段あまり話さない子と交流できたことがよかったですと考えている子が多くいた。</p>									
<p>【見込まれる成果3】 事前・事後の指導も包括的に継続して指導する等、「学級活動を中心とした総合的な指導のあり方」を工夫することで、よりよい学級経営が促進される。</p> <p>《検証方法》 学級の雰囲気に関する質問紙調査等の肯定的回答を70%以上にする。（例：自分の学級でよかったです、仲間と協力して話し合うことは大切だ、係の活動に進んで取り組んだ、話し合いで決めたことを最後までやり遂げた、等）</p> <p>〔検証結果と考察〕 学級活動を重ねることで、確実に学級の雰囲気はよくなり、他の教科学習の場においても意見交流を上手く進めることができている。何よりも相手のことを考えて話す児童が増え、自分たちでよりよい学級にしていくこうとする態度が身についている。学級目標のふり返りでも80%以上の児童が達成に向けて頑張っていると答えている。安心して話せる雰囲気なので、学習意欲にもつながり話すことが苦手な児童も話したいという思いはもてている。質問紙調査で「話し合って互いの意見のよさを生かして解決している」と肯定的に答える児童が88%で大阪市（64%）・全国（73%）平均を大きく上回った。</p>									

6	<p>【見込まれる成果4】 他の研究団体と情報交流を行い、本研究部の活動に取り入れることで研究活動を深める。</p> <p>《検証方法》 【検証方法】特別活動に関する研究者や諸団体と年6回の交流によって視野を広める。</p> <p>〔検証結果と考察〕 今年度は、2回の授業研究会に大和大学の准教授の濱川昌人先生に講師として来ていただき、学級活動（1）（2）の授業についてご指導いただくことができた。また、全特活や近特活は今年度は、オンラインで複数名参加した。近特活で研究の中心となって大阪府大会の冊子づくりを担い誌上発表のお手伝いをすることができた。</p> <p>【見込まれる成果5】 学校における全ての教育活動における様々な指導が学級活動の実践には有効である。</p> <p>《検証方法》 学級活動の指導における「可視化」の促進につなげるため、指導案に「全教育活動との関連」として明記する。</p> <p>〔検証結果と考察〕 学級活動の内容（1）の指導を低・高学年、（2）の指導を中学年とそれぞれ授業研究を行い、普段の学校生活をよりよくし、みんなで心をつなげるために集会が必要であると確認することができた。高学年では、ICTを活用することで視覚的に意見をとらえやすくなり、友だちの考えもすぐに共有でき安心して話し合いに臨むことができた。 また、（2）では、自分のめあてを短冊などで毎日見ることができるようにしたことで日々の励みになり継続して活動できた。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 今年度もコロナ禍の中研究委員が集まって会議を持つことが難しくTeamsでの話し合いを多く持った。部会（指導案検討も）Teamsで行ったところもあった。また、会場校を提供してくださった校長先生方のおかげで3本の授業研究を行うことができた。学年に合った題材で授業することができたので、児童は自分のことをしっかりと見つめて実践することができた。 また、研究発表では、中野小での公開授業で取り組みの成果を見ていただく予定であったが公開ができず、参会もできなくなつたが、発表の準備を早めに進めていたので、Teamsでの配信で大和大学の准教授濱川昌人先生に講演いただくことができた。その中でも、コロナ禍で「できないからしない」ではなく「できることを模索してできるようにする」方法を少しでも全市に発信することができた。評価についてもまとめることができたので、活用してもらえるように来年度は全市に発信していきたい。学習資料に載せたキャラパスポートにも反響があり、各校で使いやすいようにして使っていただけたらと願っている。</p> <p>《代表校園長の総評》</p>
---	--

それぞれの学校で今年度も、学習保障の観点から研究部の活動をしにくい環境であったにもかかわらず、積極的に授業研究を各部で進めることができ、研究紀要にまとめられオンラインでの発表ができたよかったです。話合い活動がコロナ禍で進めるのは難しいと言われても話し合うことで児童の仲は深まり、学級活動がやはり学級の基盤になる活動であることを改めて知ることができた。また、子どもたちも友だちとつながりたいという思いを強く持っていることが分かった。こんなときだからこそできる活動を全市に示し、指導者が強い思いをもって進めていく必要があると考える。今後も全教育活動の基本となる学級活動の大切さを全市に広められるように研究を深めていきたい。